

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 石川県 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	石川県能登町立宇出津小学校 第5学年 1組 32名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 道徳 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	障害や困難なことがあっても目標に向かって頑張り、長野パラリンピックで金メダルをとった松江美季さんの話を紹介することでパラリンピックの意義を知り、「夢」をもち続けるにはどう考え、どう行動するかを学ばせる。
5 取組内容	 <p>授業の前と後で変容が分かるように事前アンケートをとった。事前アンケートで、「困難なことがあるとどうするか」や夢について考える機会を設けた。夢については、それぞれ一人ひとりが「夢」を持っていることが分かったが、困難なことや辛いことがあると「夢」をあきらめてしまうという児童が52%もいることが分かった。</p> <p>そこで、道徳の時間に1998年の長野パラリンピックで金メダルをとった松江美季さんについて知り、交通事故で障害者となつてからの気持ちを考えたり、努力して金メダルをとった時の気持ちを考えたりする時間を設定した。美季さん自身になつたつもりで、「パラリンピックに出場するという事はどういうことなのか」ということと同時</p>

にパラリンピックの意義についても説明をした。授業では3～4人のグループで、美季さんの気持ちについて話し合い、障害や困難なことがあっても「夢」をもち続けていくには何か必要かを考え、ノートにまとめた。また、実生活に活かせるように「ふり返りの時間」も十分にとった。「ふり返し」には、事前アンケートの結果と授業の後で、自分の気持ちがどのように変わったかを具体的に書いて、深まりを実感させた。



6 主な成果

事前アンケートで、一人ひとりが「夢」を持っていることが分かったが、困難なことや辛いことがあると「夢」をあきらめてしまう児童が52%もいることも分かった。学習を通して、障害者になっても、努力し続ける姿と成果を出した松江美季さんのことを尊敬し、今までの自分を振り返ることができる良い機会となった。

「夢」	辛いことがあっても休まない	どんな時も努力し続けたい
学習前	52%	48%
学習後	83%	94%

事後学習のふり返しでは、「障害をもっていても夢をあきらめる必要はなく、パラリンピックという活躍の場があることを知った」、「困難なことがあっても、立ち向かっていく勇気とあきらめない気持ちが大事だとわかった」、「始めは、夢をあきらめない度が50%くらいだったけど、自分の中で98%くらいに変わった」など、児童の大きな変容が見られた。

7 実践において工夫した点  
(事業の特色)

事前アンケートにより実態把握が的確にできた。また事後アンケートから児童の変容を検証することができた。

8 主な課題等

今回は、松江美季さんの写真や画像で表情や笑顔、努力する姿を印象づけたが、実際に選手として活躍している動画があると、児童の心により響くのではないかと思った。

9 来年度以降の実施予定

ボランティアマインドや障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇りについては、この事業のみならず、道徳的なこととしても重要視していきたい。特に、近年は運動する機会が減り、児童の身体能力が低下していることから引き続き、様々なスポーツ触れさせていきたい。また、活躍している人を挙げることでスポーツそのものの魅力にも迫っていきたい。